

令和5年度 第4回 保土ヶ谷区障害者自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク（地域生活支援拠点） 部会 議事録	
日 時	令和6年1月11日（木）13：30 ～ 15：00
開催場所	星川地域ケアプラザ 多目的ホール
出席者	夢21ホーム、さかもとてらす、わおん、のぼら園、ゆめのね、わおん障がい者グループホーム、ポート葦、いわまワークス、恵和めぐみ、希望の家、夢21福祉会、区生活支援センター、区障害福祉課精神保健担当、区障害福祉課知的障害担当、保土ヶ谷区基幹相談
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議 題	<p>1. 事例を通してアイデアを考えよう 事例提供：夢21ホーム 事例内容：グループホームで暮らすシングルマザーの子育て</p> <p>スケジュール</p> <p>13：30～ 総合司会あいさつ、ワークの趣旨説明 R6年になって初めての部会、本日の予定は、夢21福祉会のグループホームで暮らすシングルマザーの事例を報告してもらいます。その後、グループワークで議論を深めたい。本日はよろしくお願いします。</p> <p>13：35～ 事例の説明 母親は知的障害、子は知的障害はないと言われている。母子家庭。 グループホームで暮らすことを最終的に本人の意思で決断。 課題。①子が主張する年齢になり、それをコントロールできず言いなりになりがち。叱ることや、子の思い通りにならないことを、どこまでしていいかわからない。②ママ友がないので、子育てを相談できる人がほぼいない。 保育園以外の地域資源の支援は何があるか検討したい。</p> <p>子ども家庭支援課の担当保健師が出席できないためコメントを預かった。母親の情報整理の支援に課題を感じる。保健師は、通常就学までが通常の業務の範囲であるが、就学後も支援の継続の必要を感じている。</p> <p>13：55 質問 14：00～ グループワーク ① できそうなこと、あったらいいことを考える（30分） ※意見をふせんに書く ② 意見をミクロ・メゾ・マクロに分ける（10分） ※ふせんを分けて項目に貼る</p>

14:40 全体共有

1 グループ 発表者 基幹相談支援センター

本人視点、子ども視点、地域視点から考えた。本人相談役となる人探し、訪看や子育て支援拠点の利用、子どもにとっては小学校に上がってからの社会性の獲得を、習い事やキッズ・学童の利用など、地域で支える資源開発が重要と感じた。

2 グループ 発表者 ゆめのね

ママ友がないことに関して、持続可能な横のつながり作りが必要に思う。子から見た視点が重要ではと感じた。要対協の登録や、あひるの会等の親のピア・グループで合うところを探す案が出た。利用者同士で子育てするGHの話題も出た。居宅介護の育児支援（送迎、料理等）の資源もある。本人の結婚希望に対してシェアハウスの検討まで視点を広げてもいいかもしれない。

3 グループ 発表者 生活支援センター

特性から見る子育て支援を見つけてはどうか。児童発達支援事業所など。本人に親の役割を求めすぎず、でも親としてのモチベーション維持も重要。将来はヤングケアラーの集まるグループに、子どもの参加も必要かもしれないと感じた。

4 グループ 発表者 基幹相談支援センター

親の苦手なところをフォローできるように話し合った。この事例を通して知的障害の子育てに希望が持てるという意見が出た。親子一緒に入居できるGHが増えるという意見が出た。

14:55～ まとめ：事例提供者より

子どもは、子どもの人生を考える視点を確認できた。

母親本人が継続できないこと、その性格に関しての支援が現事業所のできることはないか、と改めて整理したいと感じた。

15:00 終了

2. 今後の開催予定日について

第2木曜日 13:30～15:00

3月14日 振り返り（場所：保土ヶ谷公会堂第一会議室）

3. その他

特になし

次回： 3月14日（木） 13:30 ～15:00

場所： 保土ヶ谷公会堂 第一号会議室